

ウェルビーイングと新しい環境基本計画

◆環境政策の中心をウェルビーイングとした第六次環境基本計画

2024年5月、政府は環境基本計画を閣議決定した。国の環境政策を統合する中期計画であり、自治体や企業の環境保全対策に影響する。計画は1994年に初めて策定され、6年毎に作成されている。2000年以降は気候変動対応、循環型社会、生物多様性が謳われているが、第六次環境基本計画は環境保全とそれを通じた“ウェルビーイング／高い生活の質の実現”ができる「循環共生型社会」の構築を目指すとした。

第六次計画の期間は2024～30年となる。30年は国連のSDGs目標達成年で、環境・経済・社会を統合して向上させる「勝負の2030年」とし、自然資本を守り地上資源を基調に投資を進め、環境配慮と災害リスク軽減を両立し非常時にも役立つ「フェーズフリー」技術を支援、「地域循環共生圏」の構築により自立分散型の成長を実践、など新しい項目を入れた。

とし、自然資本を守り地上資源を基調に投資を進め、環境配慮と災害リスク軽減を両立し非常時にも役立つ「フェーズフリー」技術を支援、「地域循環共生圏」の構築により自立分散型の成長を実践、など新しい項目を入れた。

◆ウェルビーイングの考え方を国内で定着させていくべき段階

基本計画は自然資本を軸にウェルビーイングの視点から、GDPなど市場的価値だけでなく、環境の質、生活の質など非市場的価値も同時に追求するとした。

国連は24年9月に国連未来サミットを開催し、国連100周年の45年に向け、SDGsの次のグローバル・アジェンダを議論する。ウェルビーイングは国連のSDGsのより上位の目標Well-being Goals (WBGs) になる可能性があり、重要な転換点にある。環境・社会・経済の全方面にウェルビーイングを取り込む経営に世界の企業は変わる方向にある。第六次環境基本計画の主テーマは時宜にかなったもので、ウェルビーイングの考えを整理する良い機会とすべきだろう。 【新井喜博】

表 第六次環境基本計画の新視点と新戦略

「変え方を変える」6つの視点
①ストック重視:ストックの充実が必須
②長期的視点の重視:長期視点に立った投資
③本質的ニーズ重視:例は「フェーズフリー」製品(非常時にも役立つ製品;建材一体型太陽光発電等)
④無形資産・心の豊かさ:無形資産への投資
⑤コミュニティ重視:国家、市場、コミュニティのバランス
⑥自立・分散型の追求:集中型システムからの転換
環境・経済・社会の統合的向上高度化の6戦略
①「新たな成長」を導く持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築(再エネ導入、ネイチャーポジティブ投資、サステナブルファイナンスなど)
②自然資本が基盤の国土ストック価値の向上
③環境・経済・社会の統合実装の場として地域づくり
④「高い生活の質」を実感できる心豊かな暮らし実現(海洋ごみ対策、食品ロス削減など)
⑤「新たな成長」を支える科学技術・イノベーション
⑥環境を軸とした国益と人類の福祉への貢献(国際ルールづくり、途上国支援など)

(出所:環境省「第六次環境基本計画」よりARCまとめ)